



地域コミュニティのしくみづくり モデル事業報告書

目 次

I モデル事業について

- 1 モデル事業の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 地域コミュニティ連絡協議会について・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 地域コミュニティ連絡協議会の認定要件(案)・・・・・・・・ 3
- 4 地域コミュニティ連絡協議会設立・まちづくり計画策定までの流れ・・・ 4

II モデル地区の状況

- 1 式見地区の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2 南長崎地区の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 3 土井首地区の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 4 深掘地区の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- 5 茂木地区の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
- 6 横尾地区の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38

III モデル事業の検証

- 1 成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- 2 課題と対応策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
- 3 検証結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

I モデル事業について

1 モデル事業の目的

長崎市では、市長の重点プロジェクトの1つとして、「地域コミュニティのしくみづくりプロジェクト」を掲げており、このプロジェクトでは、地域の主体性、自立性を尊重した地域コミュニティの活性化を推進するため、地域の各種団体が連携し、一体的な運営を行う地域を支える新しいしくみづくりを行っています。

このしくみとは、地域の各種団体の力を集める組織として、「地域コミュニティ連絡協議会(以下、「協議会」という。)」を設立していただき、その協議会に対して、市は、人・拠点・資金の3つの視点で応援していくというものです。

しくみを成案化し、全市的に広げるにあたり、協議会による地域運営を支援し、しくみの有効性や市の支援のあり方について検証する必要があることから、モデル事業を実施することとなりました。

(1)モデル事業実施地区

平成 29 年度中に、協議会の設立及びまちづくり計画の策定が見込まれ、平成 30 年度当初からの事業実施が可能な地区として、式見、南長崎、土井首、深堀、茂木、横尾の6つの地区を選定しました。

(2)モデル地区に対する支援

- ①まちづくりを支援する職員による人的支援
 - ・地域運営に対する相談・助言等
- ②地域コミュニティ推進交付金による財政的支援
- ③拠点に関する支援
 - ・ふれあいセンター等の公共施設活用に関する相談等

(3)検証事項

- ①地域コミュニティを支えるしくみの立ち上げにおける課題の抽出
- ②市の支援のあり方

(4)検証期間

平成 30 年 4 月 2 日～平成 30 年 10 月 31 日(事業期間は 1 年間)

2 地域コミュニティ連絡協議会について

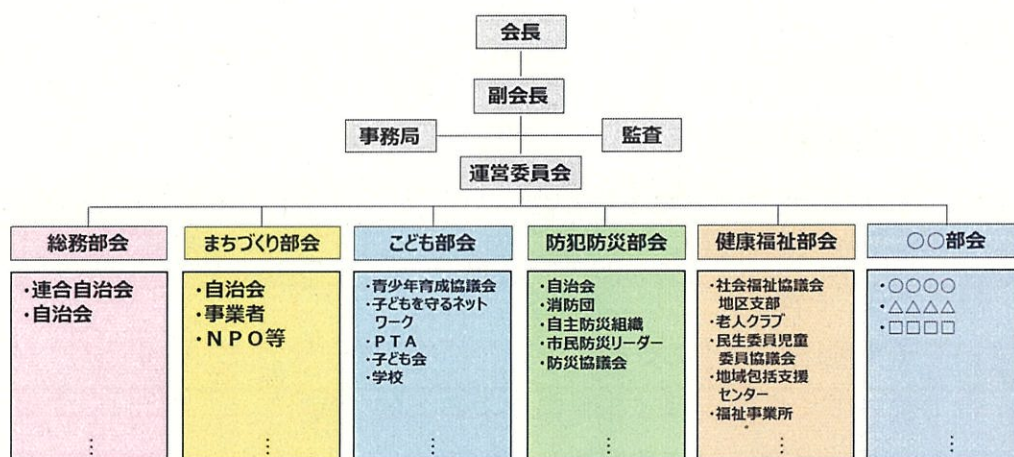
概ね現行の小学校区(統廃合が行われた小学校の場合は、統廃合前の小学校区)又は概ね連合自治会の区域を活動範囲として、住民等の多様な主体により構成され、連携・協力を図りながら当該地区の地域自治の推進に努める組織のことをいいます。

地域自治とは・・・

住民等が自らの地域に必要な取組みを地域全体で話し合い、実行していくことをいいます。このような、「地域課題を自分たちで解決できる地域」を、長崎市の目指す地域の姿だと考えています。

○組織体制のイメージ図

【部会型】



※構成団体名は一例です。また、各部会は地域の実情に合わせて設置していただきます

【ネットワーク型】



※構成団体名は一例です

3 地域コミュニティ連絡協議会の認定要件(案)

平成 30 年 10 月現在における協議会の認定要件(案)は以下のとおりです。

(1)活動区域が次のいずれかに該当すること

- ①市立の小学校の通学区域を基礎とする区域
- ②連合自治会(統廃合前の小学校の通学区域を基礎とする自治会の連合体に限る。)の区域を基礎とする区域
- ③その他市長が適当と認める区域

(2)地区を代表する団体であって、地区の様々な課題に対応できること

- ①地区内の自治会の 8 割以上が加入していること
- ②連合自治会、青少年育成協議会、子どもを守るネットワーク、PTA、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会地区支部、学校その他地域の団体の相当数が加入していること

(3)規約又は会則を有していること

- ①民主的かつ透明性を持った運営を行うことが見込まれること
- ②協議会の運営及び活動への参加に関して、当該地区内の住民等に対して広く開かれたものであること

(4)まちづくり計画を策定していること

- ①自主的かつ自立的に地域課題の解決に向けた活動を行うことが見込まれること

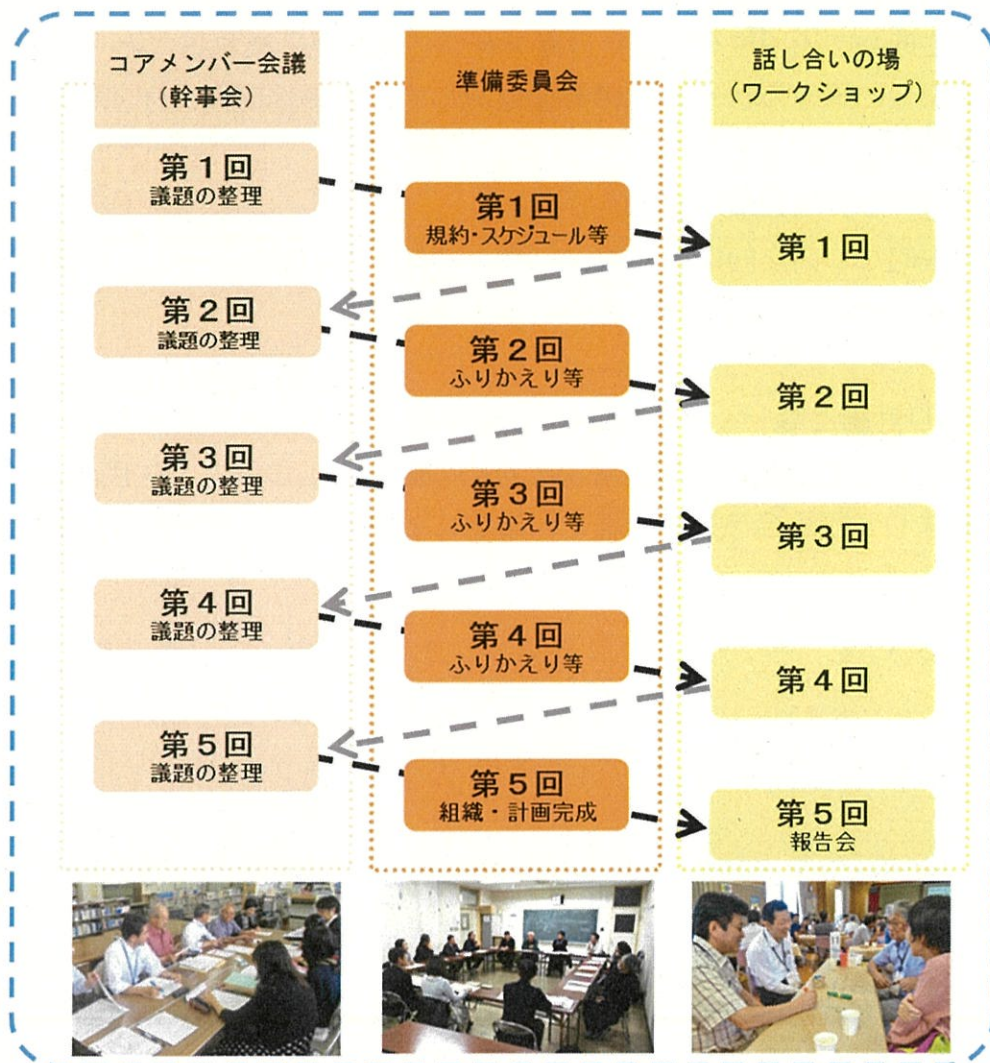
まちづくり計画とは・・・

地域の将来像及び課題、課題解決のための取組みについて、住民等の多様な主体が大勢集まり、話し合う過程を経て、策定した地域独自の長期的な計画です。

4 地域コミュニティ連絡協議会設立・まちづくり計画策定までの流れ

協議会を設立するには、住民の意識を盛り上げながら進めていく必要があります。そのためには、多くの皆さんの意見を集める話し合いの場(ワークショップ)を開くとともに、出された意見を整理し、方向性を決定するための準備委員会、コアメンバー会議(幹事会)の場が必要になってきます。

名称	対象者	内容等
コアメンバー会議 (幹事会)	準備委員会の中でも中心となる方	準備委員会で語るべき議題等を整理、検討する場
準備委員会	地域の各種団体・事業者の代表者等関係者及びその他必要な方々	話し合いの場(ワークショップ)や協議会設立の準備をする場
話し合いの場 (ワークショップ)	小・中学生、若手、女性なども含めた多様な方々	まちづくり計画に必要な意見やアイデアを集める場



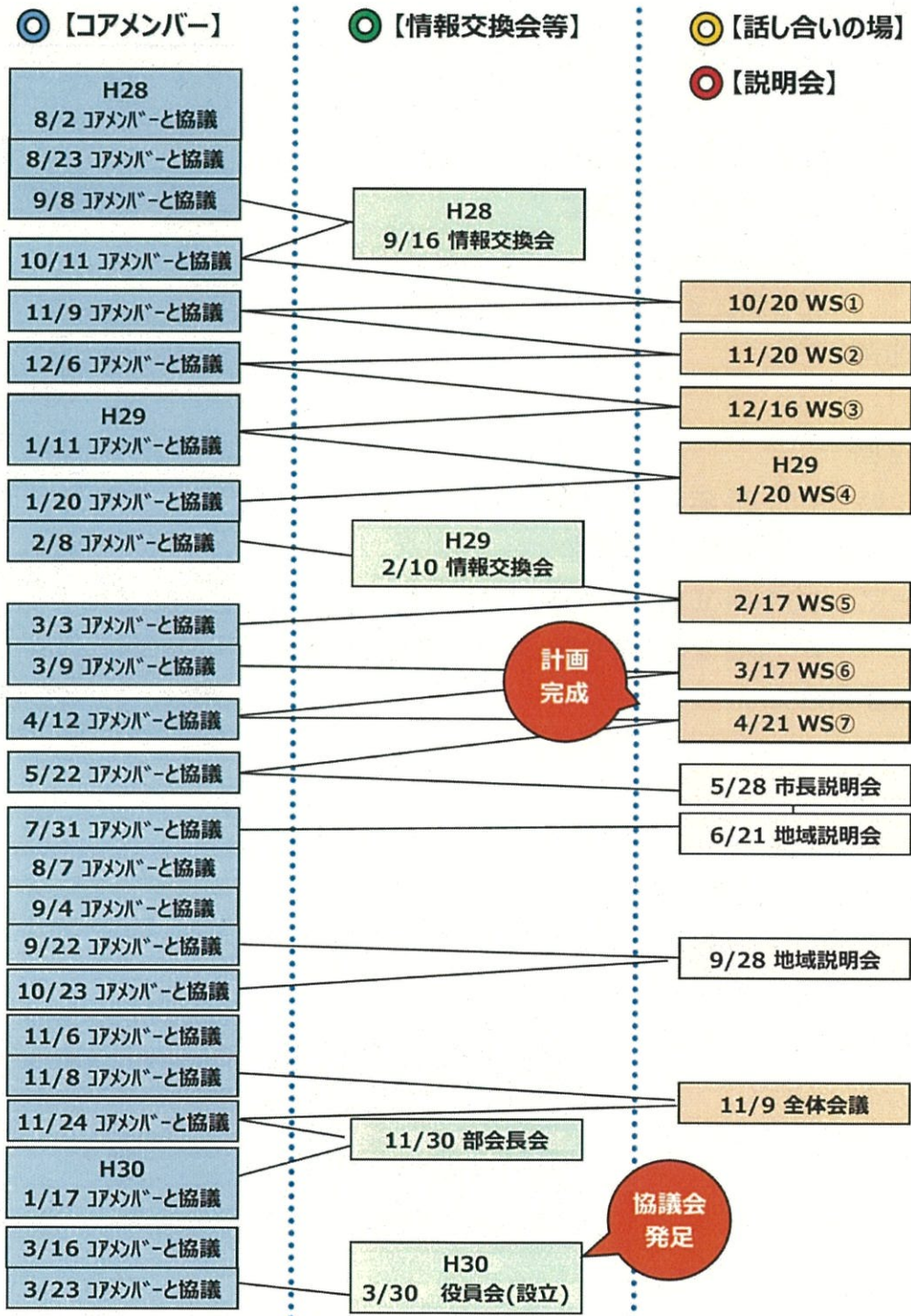
Ⅱ モデル地区の状況

1 式見地区の状況

(1) 概要

- ①協議会名称 式見地区コミュニティ連絡協議会
- ②人口・世帯数 2,928人・1,438世帯(平成30年9月末現在)
- ③3区分人口構成割合 0～14歳(5.7%) 15～64歳(49.3%) 65歳以上(45.0%)

(2) 協議会設立に向けてのプロセス



(3)話し合いの様子

①コアメンバーによる打ち合わせ(1団体5人)

[式見地区連合自治会]

全 24 回開催

■主な議題

- ・協議会設立、まちづくり計画策定の進め方
- ・まちづくり計画策定の話し合いで出された意見の整理
- ・まちづくり計画の推進体制(協議会の体制)

②話し合いの場

「わがまちみらい工房 in 式見」

■第1回

日 時：平成 28 年 10 月 20 日(木) 19:00~21:00

場 所：式見地区公民館講堂

テーマ：「式見のいいもの・いまちなものを
どう活かす、良くするか考える」

参加者：75 人

■第2回

日 時：平成 28 年 11 月 20 日(日) 9:00~12:30

場 所：式見地区公民館講堂

テーマ：「式見のいいもの・いまちなものについて、
まち歩きを行って体験し、地図に落とし込む」

参加者：69 人

■第3回

日 時：平成 28 年 12 月 16 日(金) 19:00~21:00

場 所：式見地区公民館講堂

テーマ：「式見の現状、これから先の未来を共有し、『どんな式見にしたいのか』『どんな式見に住みたいのか』をみんなで考える」

参加者：57 人



■第4回

日時：平成29年1月20日(金) 19:00~21:00

場所：式見地区公民館講堂

テーマ：「式見の現状、これから先の未来を共有し、
住みたい式見にしていくための手立てをみんなで考える」

参加者：55人



■第5回

日時：平成29年2月17日(金) 19:00~21:00

場所：式見地区公民館講堂

テーマ：「10年後の式見の理念(キャッチフレーズ)を考える」

参加者：54人



■第6回

日時：平成29年3月17日(金) 19:00~21:00

場所：式見地区公民館講堂

テーマ：「式見のまちづくり計画(案)をみんなで作る」

参加者：47人



■第7回

日時：平成29年4月21日(金) 19:00~21:00

場所：式見地区ふれあいセンター

テーマ：「式見地区まちづくり計画の発表、意見交換」

参加者：42人



式見地区コミュニティ連絡協議会 組織図



(5)平成 30 年度実施事業の概要

①包丁研ぎサービス事業

■目的

高齢者の生きがいをづくりと住民間の絆を深める

■実施内容

地域住民が持参した包丁や鎌等を、包丁研ぎを得意とする高齢者数名で研ぐ「包丁・鎌研ぎ会」を年 4 回実施

高齢者部会が中心となり、自治会、民生委員、老人クラブ、社協支部、地域包括支援センター等がスタッフとして参画

開催日	会場	利用者	スタッフ
平成 30 年 6 月 30 日(土)	式見地区ふ	24 人	16 人
平成 30 年 9 月 29 日(土)	れあいセン	23 人	15 人
平成 30 年 12 月 22 日(土)予定	ター駐車場	25 人見込	
平成 31 年 3 月頃予定		25 人見込	



②式見川ホタルまつり事業

■目的

式見川のホタルを多くの市民に観賞してもらい、交流人口を増やして式見を盛り上げる

■実施内容

「式見ホタルまつり」を 2 日間にわたって開催し、ホタル観賞会とともに初日は綿菓子とヨーヨー釣り、野菜釣りといったイベントも実施

地域産業部会が中心となり、自治会、郵便局や事業所等がスタッフとして参画

開催日	会場	参加者	スタッフ
平成 30 年 5 月 26 日(土)・ 27 日(日)	式見川周辺 (イベントは NTT 駐車場)	300 人	30 人



③式見みなとまつり事業

■目的

式見に多くの市民が集まって賑わいを生む

■実施内容

「式見夏祭り」に合わせて「カラオケ大会」を実施

地域・産業振興部会が中心となり、自治会、郵便局や事業所等がスタッフとして参画

開催日	会場	参加者	スタッフ
平成 30 年 8 月 15 日(水)	式見漁港埋立地	80 人	10 人



④協議会の運営(広報紙の発行)

■目的

協議会の発足の経緯や活動内容について地域住民に広く周知する

■実施内容

協議会報として「しきみ地コミだより」を発行し、地域住民や関係機関等に配布

部数	回数
1,350 部	年 3 回(5 月発行、時期未定)



(6)協議会設立の成果と今後の課題

①協議会設立の成果

- ・事業実施前には、担い手の確保の心配があったが、取り組みが進む中で、新たな担い手の参画が得られた
- ・高齢化が進む地区の課題を解決するため、送迎サービスなどの生活支援事業や生きがいづくり事業などを新たに企画し実施することができた
- ・協議会運営の要となる事務局について、適切な人材が確保できたことで、事業の企画や調整等の役割分担が図られた
- ・協議会の構成団体間で情報共有をすることで、事業実施の際の協力体制ができた

②今後の課題

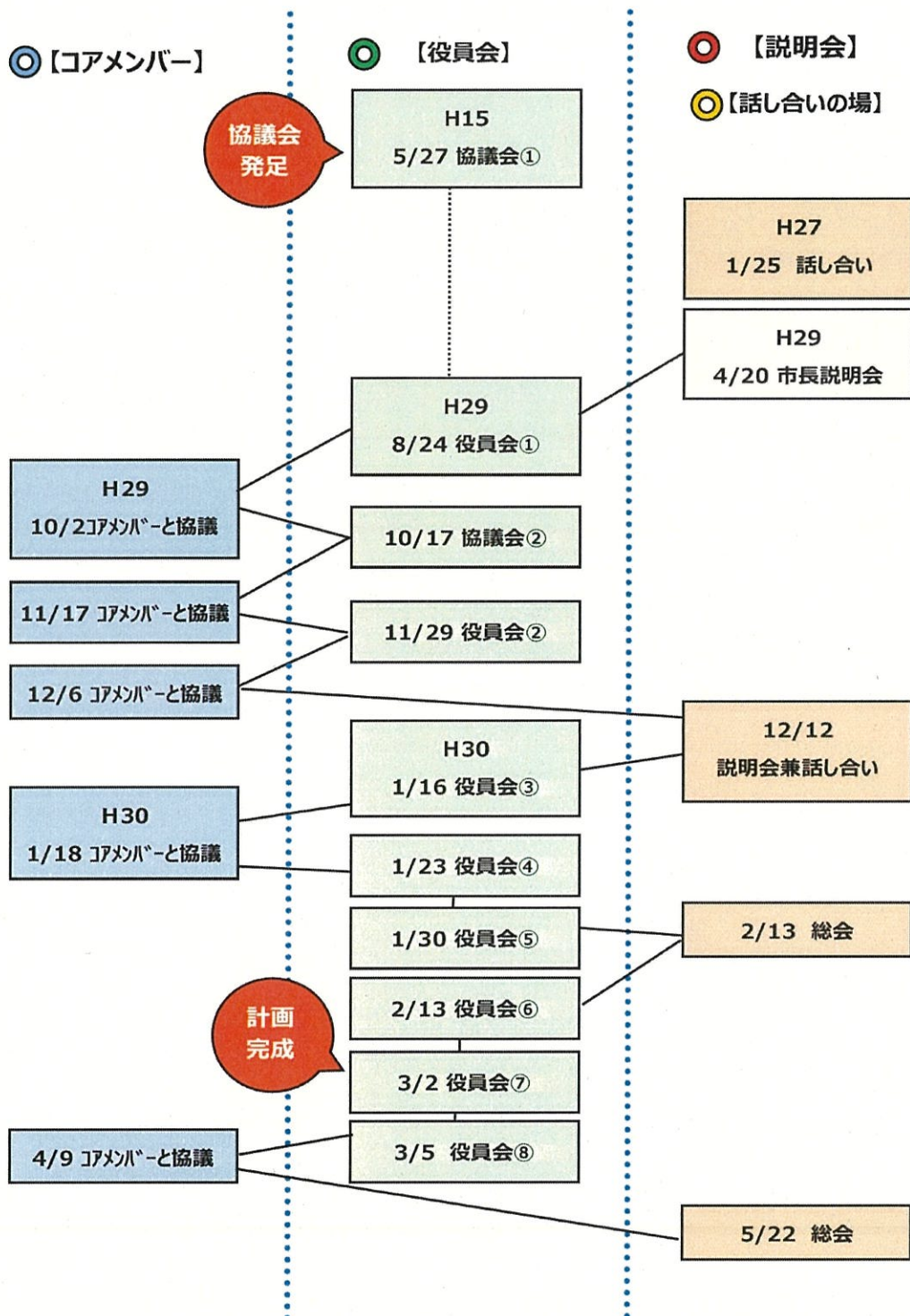
- ・4つの部会のうち、事業の企画準備が整った2つの部会から進みだした。今後は、地域全体の課題解決に向けた事業に取り組むことができるよう、他の2つの部会にも働きかける必要がある

2 南長崎地区の状況

(1)概要

- ①協議会名称 ダイアランドまちづくり連絡協議会
- ②人口・世帯数 4,898人・2,160世帯(平成30年9月末現在)
- ③3区分人口構成割合 0～14歳(10.1%)15～64歳(53.8%)65歳以上(36.1%)

(2)協議会設立に向けてのプロセス



(3)話し合いの様子

①役員会(8 団体 8 人)

ときわ会、第 1 自治会、第 2 自治会、第 3 自治会、第 4 自治会、アパート自治会、ダイヤランドふれあいセンター、小ヶ倉地区民児協

全 7 回開催

■主な議題

- ・話し合いの場開催に向けた打合せ
- ・話し合いの場に出された意見の確認
- ・現在の協議会の体制や将来像、取り組みを記載した計画について、市の地域コミュニティのしくみと同じ方向性であることの確認及び見直し
- ・モデル地区として取り組むことの確認

②話し合いの場

「ダイヤランド・地域大交流会」

日 時：平成 27 年 1 月 25 日(日) 14:00～16:30

場 所：ダイヤランド・小ヶ倉ふれあいセンター 第一研修室

テーマ：「今後も住みやすいまちにするために」

参加者：68 人



「ダイヤランド未来会議」

日 時：平成 29 年 12 月 12 日(火) 19:00～21:05

場 所：ダイヤランド・小ヶ倉ふれあいセンター 第一研修室

テーマ：「これからのダイヤランドのまちづくりについて」

参加者：73 人



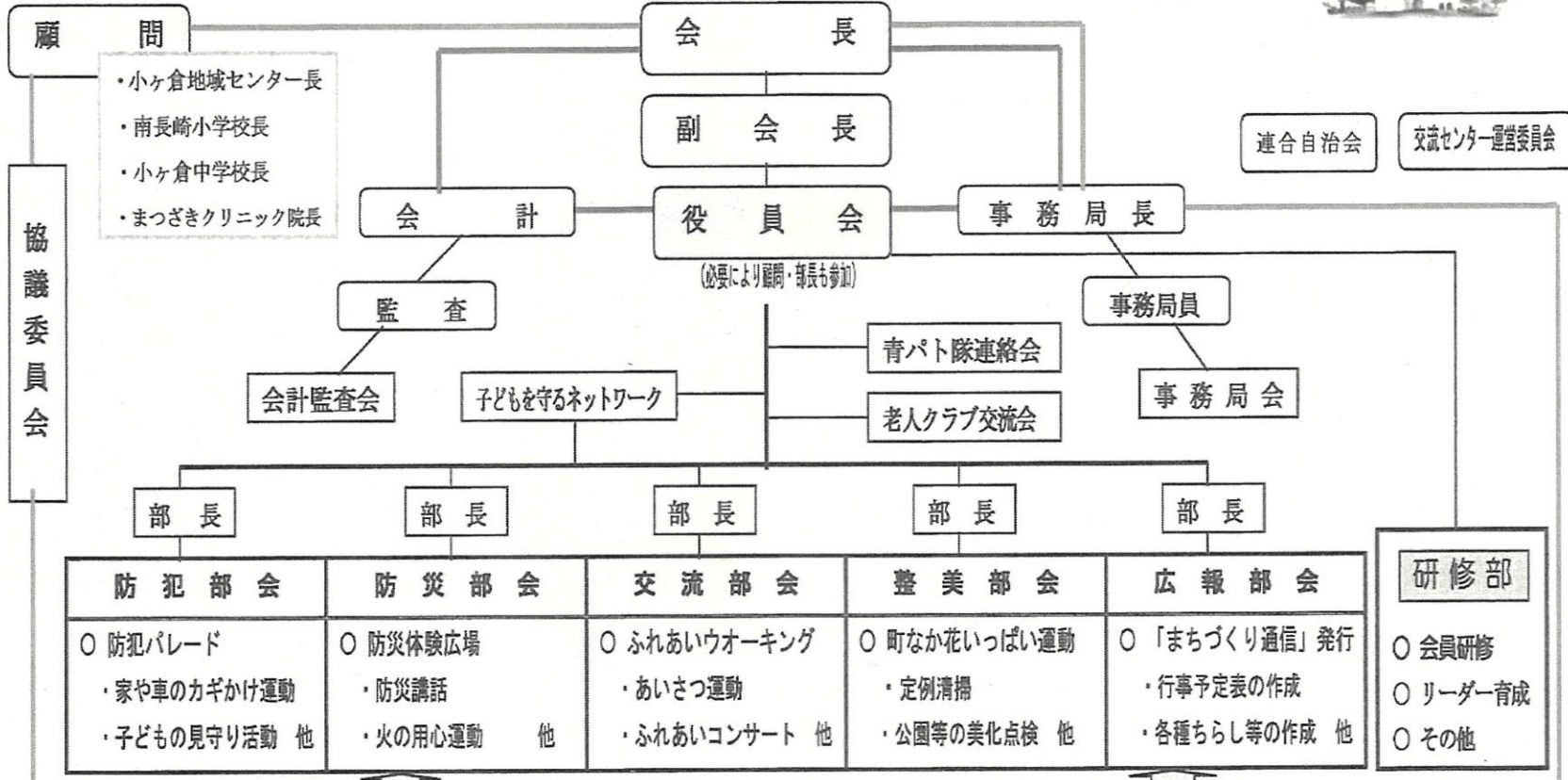


ダイヤランドまちづくり連絡協議会の組織

【事務局・ダイヤランドふれあいセンター内】



(4) 協議会体制図



・第1自治会・第2自治会・第3自治会・第4自治会・アパート自治会・熟年会・白寿会・ときわ会・親和会・大樹会・南長崎小学校・小ヶ倉中学校・南長崎小学校育友会・小ヶ倉中学校育友会・子どもを守るネットワーク・育成協議会・社協ダイヤランド支部・ふれあいセンター・民生児童委員・市交通指導員・市少年補導員・県少年補導員・市スポーツ推進委員・保護司・青い鳥幼稚園・ダイヤランド保育園・ダイヤランド郵便局・ほしのこランド・子供会5 (各自治会)・崎望館・オレンジの丘・地域包括支援センター・本会委嘱員

(5)平成 30 年度実施事業の概要

①「まちづくり便り」発行

■目的

まちづくり活動の主役である住民のまちづくり活動への意識と実践への意欲を高めるために定期的に「便り」を発行し、啓発活動を進める

■実施内容

まちづくり通信を毎月発行し、自治会回覧により協議会の活動を広く住民に周知した

部数	回数
300 部	月 1 回(6 月以降)



②「地域年間行事予定表」作成

■目的

住民に対して、「この町で、いつ・どこで、何があるか」を周知し、行事の重複の防止や行事への参加を促す

■実施内容

年間行事予定表を作成し、協議会構成員や自治会役員等へ配布した

部数	回数
100 部	年 1 回(6 月発行)

③協議会発足 15 周年記念事業

■目的

協議会発足 15 周年を機に、協議会のこれまでを顧みるとともに、まちの未来を展望し、まちづくりへの意欲を高めるための記念事業を実施する

■実施内容

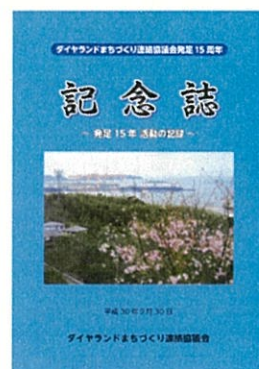
記念式典の開催と記念誌の発行

【記念式典】

開催日	会場	参加者数
平成 30 年 9 月 30 日(日) ※悪天候のため、中止	ダイヤモンド地区ふれあいセンター	—

【記念誌】

部数	回数
150部	1回(9月発行)



④まちなみクリーン事業

■目的

通行の安全の確保及び環境美化のため、シンボルでもある団地入り口の「モニュメント」の清掃及び補修活動を行う

■実施内容

床材のセメントタイルの貼り付け及び目地の補修を行った。整美部会が中心となって実施

開催日	会場	参加者	スタッフ
平成30年10月15日(月)	ダイヤモンド団地入口	10人	10人

(6)協議会設立の成果と今後の課題

①協議会設立の成果

- ・地域住民に対する協議会活動の周知不足という課題解決のために、広報誌を毎月発行し、自治会回覧により周知を行った
- ・協議会のまちづくり活動を地域住民に周知することで、認知度が高まり、参画する団体やスタッフのやる気が向上した
- ・部会制にすることで、部会の自主性に任せて事業を計画、実行してもらうことができ、役割分担が図られた
- ・分野ごとの部会制にすることで、事業を企画する段階から若い人も交えて話すようになり、若手が活動に参画するきっかけづくりになった
- ・協議会の設立により、住民同士の顔の見える関係が構築された

②今後の課題

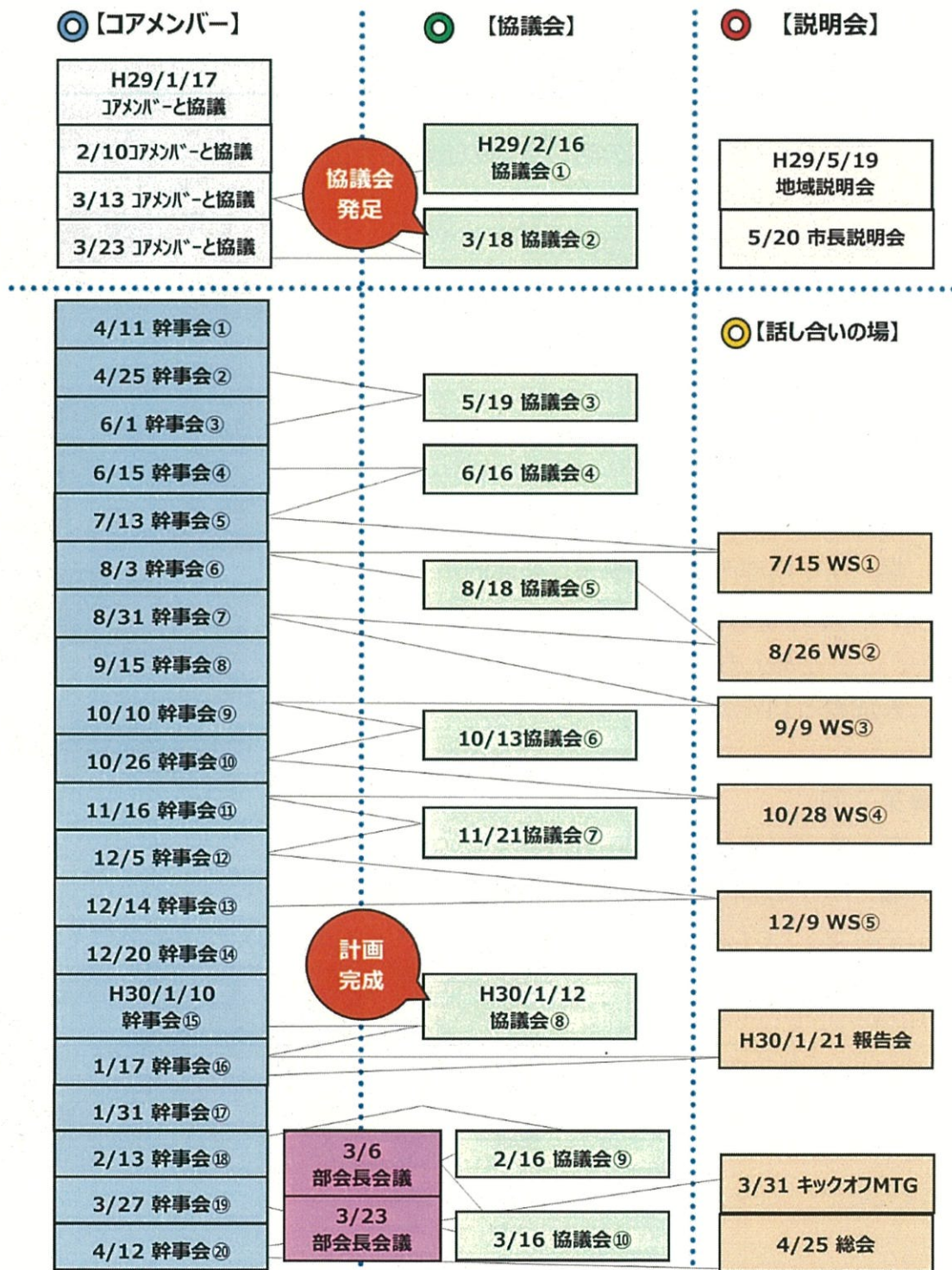
- ・協議会によるまちづくり活動を継続していくためには、人材育成、後継者育成が必要である

3 土井首地区の状況

(1) 概要

- ①協議会名称 土井首地区コミュニティ協議会
- ②人口・世帯数 14,688人・6,760世帯(平成30年9月末現在)
- ③3区分人口構成割合 0～14歳(12.0%) 15～64歳(54.7%) 65歳以上(33.3%)

(2) 協議会設立に向けたプロセス



(3)話し合いの様子

①協議会(16 団体 29 人)

土井首地区自治連合会、土井首老人クラブ連合会、社協土井首支部、土井首地区民
児協、土井首中学校区育成協、土井首中 PTA、土井首小育友会・おやじの会、南陽
小育友会、南陽ファザーズ、土井首中、土井首小、南陽小、土井首地区公民館利用
者代表（学習グループ）、土井首地区保護司会、土井首地区教育振興会、南部市民
センター

全 10 回開催

■主な議題

- ・地域コミュニティのしくみづくりに係る共有と今後の方向性について
- ・土井首地区ふれあいセンターの運営について
- ・まちづくり計画策定の話合いの進め方や出
された意見の整理について
- ・協議会の組織体制について
- ・事業計画の策定について



②話し合いの場

「土井首地区『どいのくび未来サミット』」

■第 1 回

日 時:平成 29 年 7 月 15 日(土) 10:00~12:00

場 所:南部市民センター 多目的ホール

テーマ:「土井首について
みんなで話そう！」

参加者: 114 人



■第 2 回

日 時:平成 29 年 8 月 26 日(土) 9:00~11:00

場 所:南部市民センター 多目的ホール

テーマ:「どんなまちにしたいか、何ができるか、みんなで話そう！」

参加者: 111 人



■第3回

日時：平成29年9月9日(土) 9:00～12:00
場所：南部市民センター 多目的ホール、土井首地区周辺

テーマ：「みんなでまちを歩こう！」

参加者：111人



■第4回

日時：平成30年10月28日(土) 10:00～12:00
場所：南部市民センター 多目的ホール

テーマ：「分野に分かれて、みんなで話そう！」

参加者：110人



■第5回

日時：平成30年12月9日(土) 10:00～12:00
場所：南部市民センター 多目的ホール

テーマ：「まちづくり計画(骨子案)をみんなで確認しよう！」

参加者：103人



■報告会

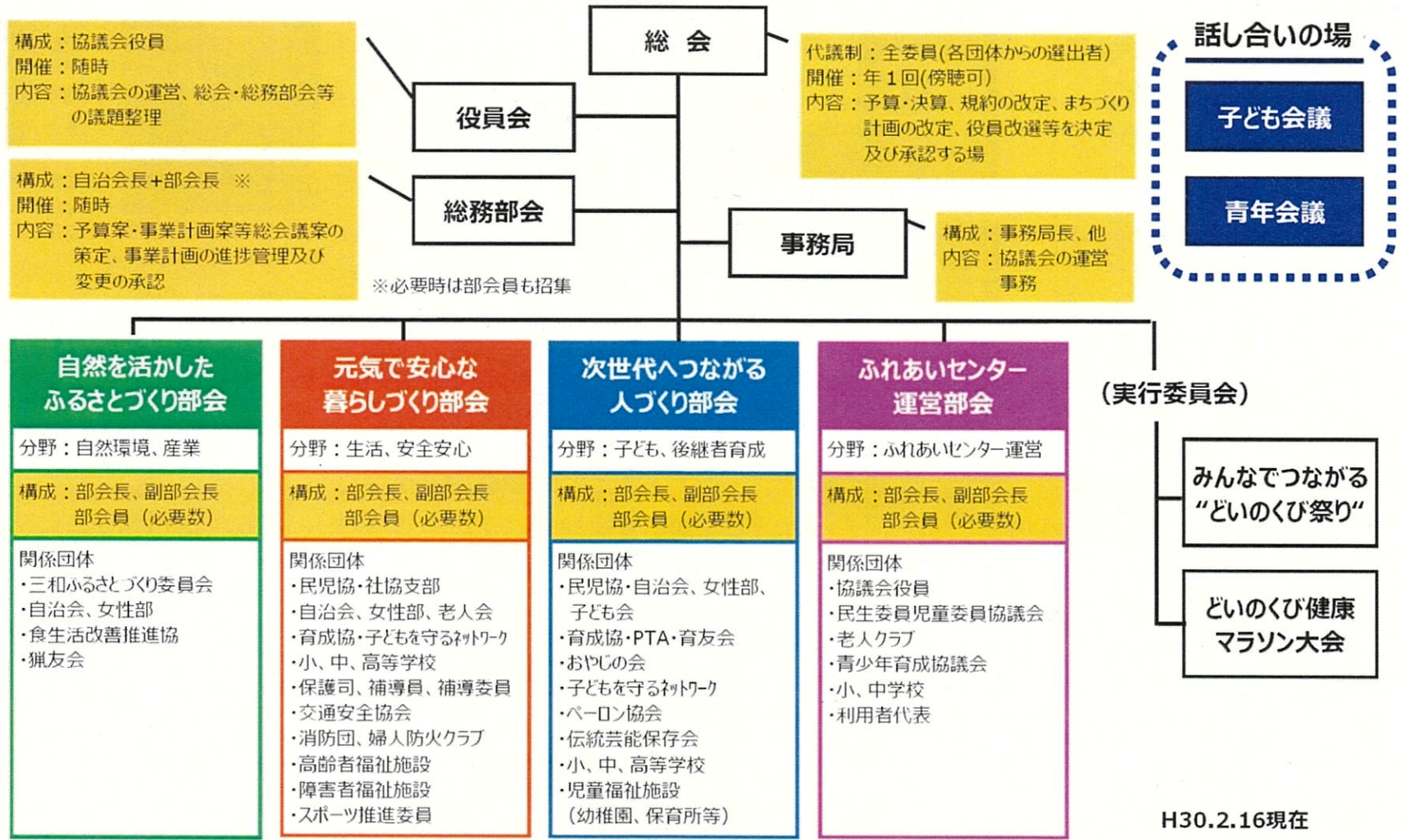
日時：平成30年1月21日(日) 10:00～12:00

場所：南部市民センター 多目的ホール

テーマ：「土井首地区まちづくり計画をみんなに報告しよう！」

参加者：138人





(5)平成 30 年度実施事業の概要

①どいのくび祭

■目的

地域住民の交流促進や次世代のリーダー育成・発掘を目的に開催する。

また、小中学生からイベントに係るアイデアを出してもらするなど、地域全体で楽しめるイベントを目指している



■実施内容

「子ども会議」のアイデアを参考に、大声大会、じゃんけん列車、赤ちゃんハイハイ競争などの各種イベント、フリーマーケットや露店等の出店を実施。

連合自治会、育成協、民生委員、社協支部、小中学校、消防団、福祉事業所等が構成員となるどいのくび祭実行委員会により実施

開催日	会場	参加者数	スタッフ
平成 30 年 10 月 21 日(日)	えがわ運動公園	約 2,000 人	100 人

②子ども会議

■目的

子どもたちが自由に意見を言える場の提供と、大人にはない考えを導き出し、地域住民としての意識を高め、次世代のリーダー育成につなげることを目的に開催する。

■実施内容

各学期に 1 回、土井首地区内の小学生、中学生を対象に会議を実施し、その意見を土井首のまちづくりに生かす。第 1 回で出された意見やアイデアは、どいのくび祭の事業に活かされた

次世代へつながる人づくり部会を中心に、PTA、自治会、小中学校、育成協、南陽ファザーズ等が参画し実施



開催日	会場	参加者数	スタッフ
平成 30 年 7 月 14 日(土)	南部市民センター	45 人	10 人

テーマ：『どいのくび祭』をどんな祭にしたいか？」

「その中で自分たちが手伝えることがないか？」

③自然環境調査及び自然環境マップの作成

■目的

自然を守り、育て、自然を活かしたまちづくりを行うため、土井首地区全体の自然環境を知る

■実施内容

生物観察の専門家の指導の下に、川の生きもの採集、水質調査、生きもの観察を実施。

自然を活かしたふるさとづくり部会が中心となり、三和町ふるさとづくり委員会、自治会、PTA、小中学校等が参画

開催日	会場	参加者数	スタッフ
平成 30 年 8 月 4 日(土)	鹿尾川	50 人	11 人
平成 30 年 8 月 11 日(土)	江川川	30 人	3 人
平成 30 年 8 月 25 日(土)	大川川	43 人	10 人

④地域に住むお医者さんとの座談会事業

■目的

土井首地区は、健康への関心やがん検診の受診率が低いため、地域住民の健康意識を高めることが必要である。地域に居住する医師との関係を深め、地域住民が健康に関心を持ち、更には疾病の早期発見・早期受診及び疾病予防のための健康づくりに対する意識向上を図ることで健康寿命の延伸を目的に実施するもの

■実施内容

長崎記念病院 福井会長による講演会を開催

テーマ：「長崎南部の医療の現状と課題」

元気で安心な暮らしづくり部会が中心となり、民生委員、自治会、社協支部、地域包括支援センター、福祉事業所が参画し実施

開催日	会場	参加者数	スタッフ
平成 30 年 10 月 27 日(土)	南部市民センター	52 人	10 人

(6)協議会設立の成果と今後の課題

①協議会設立の成果

- ・「まちあるき」の実施に伴い、様々な団体・事業所等の協力を得られたことから連携する機運がより高まった
- ・協議会に学校が参画することで、子どもたちへの周知や参加がスムーズになった
- ・話し合いの回数を重ねることで、目指す目標や取り組みが明確になり、参加者のまちづくりに関わる当事者としての意識が強くなった
- ・自治会や PTA が別々に行っていたパトロール等の活動を連携して行ってはどうかとの提案がなされるなど、事業の見直しや負担軽減のきっかけづくりになった
- ・健康への関心やがん検診の受診率が低いという地区の課題解決のために、地域に住むお医者さんとの座談会を実施し、健康づくりに対する意識向上を図った

②今後の課題

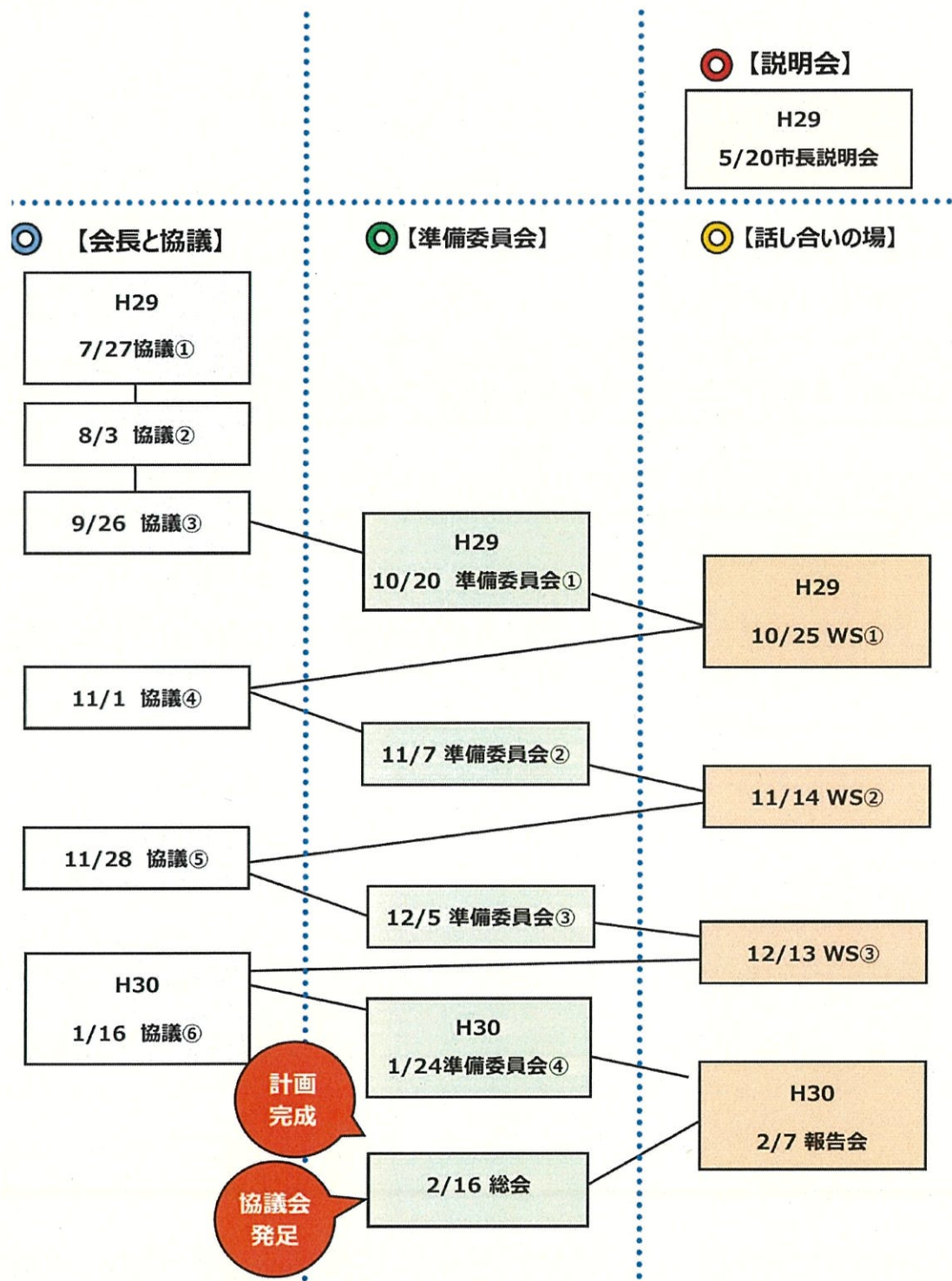
- ・協議会の活動や成果を住民に広く周知し、参加を呼びかけるための継続的な情報発信が必要である
- ・各団体の既存の活動について、連携・協力して行うことが効果的なものは、同時に開催するなど工夫し、負担軽減につなげることが重要である

4 深堀地区の状況

(1)概要

- ①協議会名称 深堀地区コミュニティ協議会
- ②人口・世帯数 6,489人・3,169世帯(平成30年9月末現在)
- ③3区分人口構成割合 0～14歳(12.5%)15～64歳(58.1%)65歳以上(29.4%)

(2)協議会設立に向けたプロセス



(3)話し合いの様子

①準備会(12 団体 14 人)

深堀地区連合自治会、社協深堀支部、深堀地区老人クラブ連合会、消防団、婦人会、深堀地区民児協、深幸会、深堀小育友会、深堀中 PTA、深堀中育成協、深堀小、深堀中

全 4 回開催

■主な議題

- ・まちづくり計画策定スケジュールについて
- ・準備会の規約・委員について
- ・話し合いの場について
- ・協議会の体制
- ・まちづくり計画、協議会の体制・規約・役員について



②話し合いの場

「深堀地区『深堀の未来を語る会』」

■第 1 回

日 時：平成 29 年 10 月 25 日(水) 19:00～21:00

場 所：深堀体育館

テーマ：「深堀についてみんなで話そう！」

参加者：78 人



■第 2 回

日 時：平成 29 年 11 月 14 日(水) 19:00～21:00

場 所：深堀体育館

テーマ：「まちづくり計画の素案を確認する」

参加者：63 人



■第3回

日 時：平成 29 年 12 月 13 日(水) 19:00~21:00

場 所：深堀体育館

テーマ：「まちづくり計画の案を確認する、協議会の組織体制について検討する」

参加者：58 人



■報告会

日 時：平成 30 年 2 月 7 日(水) 19:00~20:00

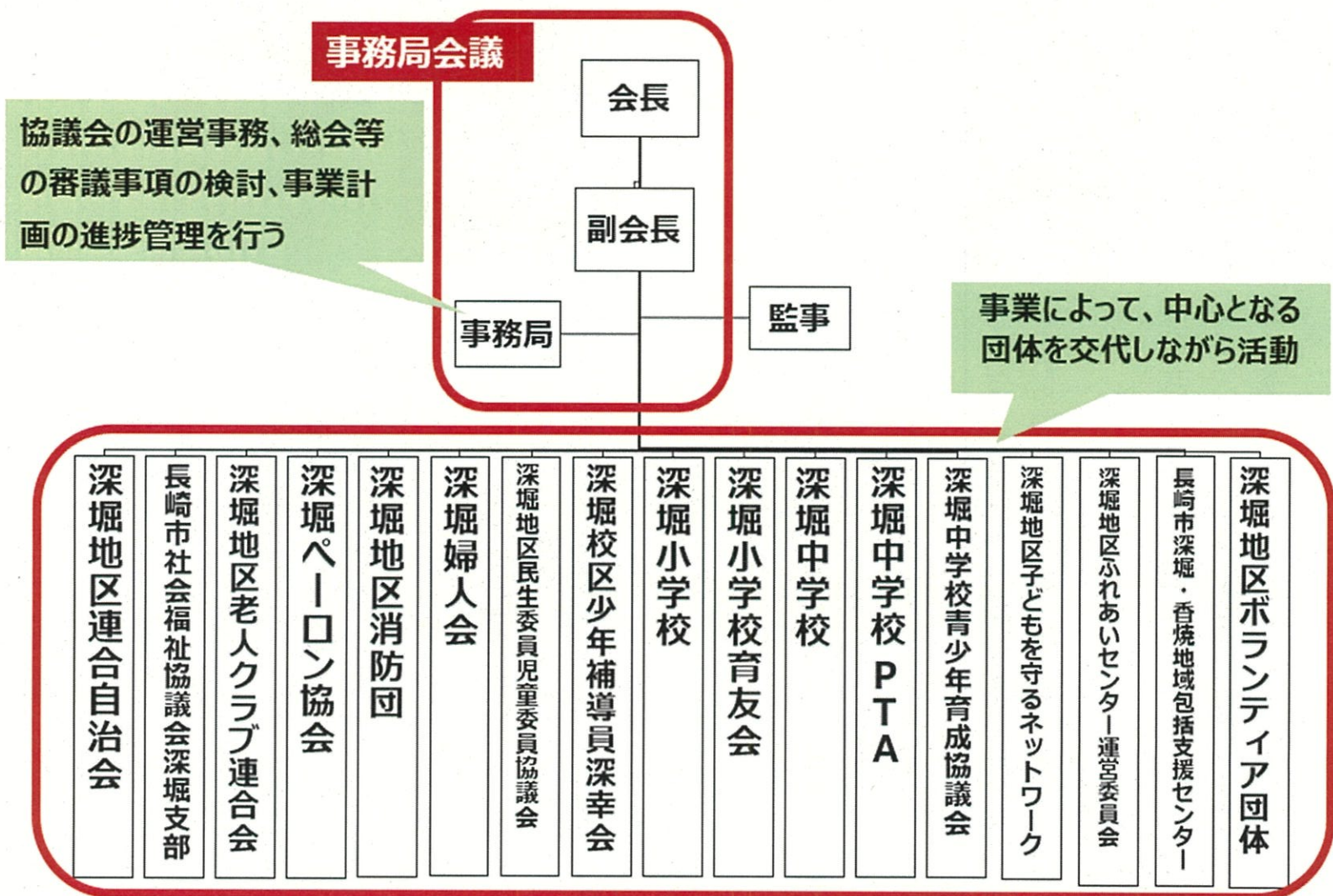
場 所：深堀地区公民館

テーマ：「深堀地区まちづくり計画をみんなに報告しよう！」

参加者：67 人



(4)協議会体制図



構成団体：17 団体

(5)平成 30 年度実施事業の概要

①夏休みサマースクール活動

■目的

子どもたちが、地域の様々な人たちと交流しながら夏休みの課題に取り組み、深堀の歴史について学ぶことで、学ぶ意欲の向上や豊かな心の形成を図る

■実施内容

夏休みの宿題に取り組む勉強会、昼食のそうめん流し、地域のお寺の住職による深堀地区の歴史講話、史跡めぐりなど。

育成協、連合自治会、民生委員、大学生が中心となって実施

開催日	会場	参加者	スタッフ
平成 30 年 8 月 19 日(日)	深堀地区ふれあいセンターほか	27 人	21 人



②地域でまわそう市

■目的

地域の皆さんが近所で買い物をできるようにすることや、リサイクルによって環境にやさしい生活に取り組むこと、また、深堀地区のにぎわいを発信することを目的とする

■実施内容

個人出店によるフリーマーケットのほか、地域の各種団体や店舗による食料品や手作り雑貨の販売、骨密度測定等の健康チェック、古本の無料配布や子ども向けにラムネの早飲み競争を実施。

連合自治会、育成協、婦人会や地域包括支援センターが構成員となる事務局が中心となり実施

開催日	会場	参加者	スタッフ
平成 30 年 9 月 9 日(日)	深堀ふれあい広場	約 300 人	13 人
平成 30 年 11 月 18 日(日)		約 900 人	20 人
平成 31 年 3 月 17 日(日)		300 人見込	



※第 2 回参加者数は、「深堀ふれあいまつり」と合わせて計上

③深堀地区敬老祝賀会

■目的

これまで暮らしてきたふるさとをここまで発展させてくれたことに感謝し、これからも末永く元気に、この地区で暮らしていただくために、長寿と健康を、地域をあげてお祝いする

■実施内容

子どもたちの合唱、踊りなどの発表や、高齢者同士の交流の場の開催。
連合自治会、民生委員、育成協等が中心となり実施

開催日	会場	参加者	スタッフ
平成 30 年 9 月 17 日(月・祝)	深堀体育館	約 200 人	延 116 人



④広報事業

■目的

協議会の活動を地域住民に周知・報告する

■実施内容

協議会発行の地域情報誌「ふかほり」を発行し、深堀地区の世帯及び各関係機関等に配布

部数	回数
3,000 部	年 3 回(7 月・10 月発行、次回時期未定)



(6)協議会設立の成果と今後の課題

①協議会設立の成果

- ・ 様々な団体、世代から新たな視点でのアイデアが出され、リサイクルや賑わいの創出を目的とするイベントの実施につながった
- ・ まちづくり計画策定の複数回の話し合いに、様々な団体、世代が参加することで新たな担い手が出てきた
- ・ 中心となる団体に各団体が協力して事業の企画、運営を実施することで、役割分担・負担軽減が図られた
- ・ 事務局員を増やすなど事務局を強化したことで、構成団体との連携調整が円滑に行われるようになった

②今後の課題

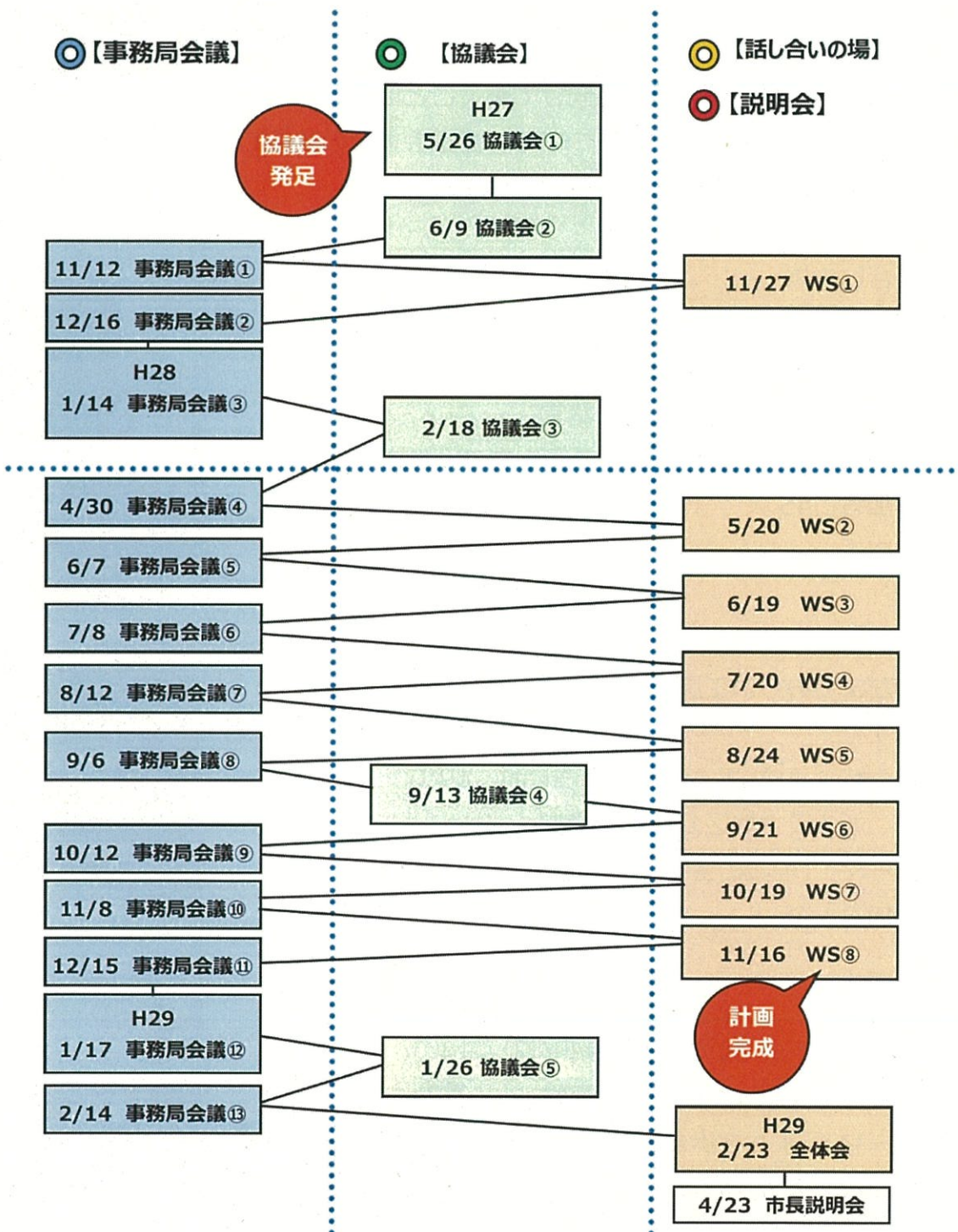
- ・ 従来から各種団体を集めた情報交換会を行っているが、今後はより多くの企業などにも参画してもらい、さらに情報交換の場を充実させる必要がある

5 茂木地区の状況

(1) 概要

- ①協議会名称 茂木コミュニティ連絡協議会
- ②人口・世帯数 4,592人・2,205世帯(平成30年9月末現在)
- ③3区分人口構成割合 0～14歳(7.7%)15～64歳(53.3%)65歳以上(39.0%)

(2) 協議会設立に向けてのプロセス



(3)話し合いの様子

①茂木コミュニティ連絡協議会(14 団体 14 人)

茂木校区連合自治会、茂木地区振興協議会、茂木中学校区育成協、茂木小 PTA、茂木中 PTA、子どもを守る会、茂木地区民児協、茂木小学校区子どもを守るネットワーク、茂木校区老人会、消防団、茂木パーロン保存会、茂木の環境を考える会アース、茂木愛創会、各協力団体

全 5 回開催

■主な議題

- ・協議会設立について
- ・事務局体制について
- ・まちづくり計画の策定に向けて動くことについて
- ・計画の策定状況の報告について、協議会体制の変更について
- ・今後の進め方について、協議会体制について



②話し合いの場

「わがまちみらい会議室 in 茂木」

日 時：平成 27 年 11 月 27 日(金) 19:00~21:00

場 所：茂木地区公民館 講堂

テーマ：「茂木の“宝物”探し」「茂木をこんなまちにしたい」

参加者：45 人



「わがまちみらい工房 in 茂木」

■第 1 回

日 時：平成 28 年 5 月 20 日(金) 19:00~21:10

場 所：茂木地区公民館 講堂

テーマ：「地域の宝物をどう生かすか考える」

参加者：45 人



■第 2 回

日 時：平成 28 年 6 月 19 日(日) 14:30~18:10

場 所：茂木地区公民館 講堂

テーマ：「まちを歩き、まちを知る」

参加者：45 人



■ 第3回

日 時：平成 28 年 7 月 20 日(水) 19:00～21:10

場 所：茂木地区公民館 講堂

テーマ：「これからの茂木を考える」

参加者：70 人



■ 第4回

日 時：平成 28 年 8 月 24 日(水) 19:00～21:10

場 所：茂木地区公民館 講堂

テーマ：「未来への手立てを考える」

参加者：64 人



■ 第5回

日 時：平成 28 年 9 月 21 日(水) 19:00～21:00

場 所：茂木地区公民館 講堂

テーマ：「未来の目指す姿を決める」

参加者：41 人



■ 第6回

日 時：平成 28 年 10 月 19 日(水) 19:00～21:10

場 所：茂木地区公民館 講堂

テーマ：「まちづくり計画書をつくる」

参加者：53 人



■ 第7回

日 時：平成 28 年 11 月 16 日(水) 19:00～21:00

場 所：茂木地区公民館 講堂

テーマ：「未来についてみんなで話す」

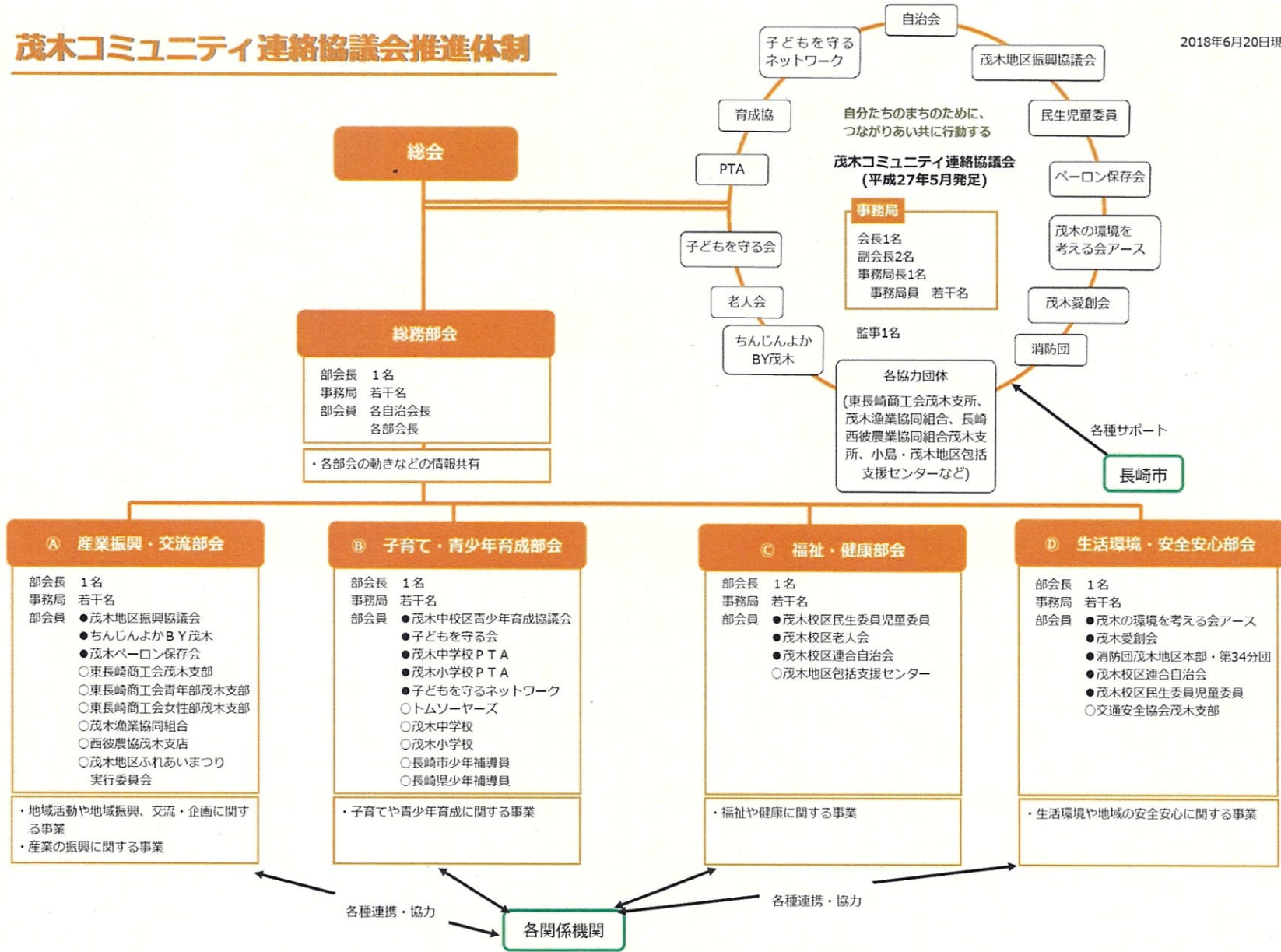
参加者：67 人



茂木コミュニティ連絡協議会推進体制

2018年6月20日現在

(4) 協議会体制図



(5)平成 30 年度実施事業の概要

①夏祭り事業

■目的

地域住民と各企業、団体、地域外の多くの方々を茂木地域に呼び込むため、「夏まつり」を開催し、地域の活性化を図る。

■実施内容

子ども神輿、ラムネ早飲み大会、あっち向いてホイ茂木No.1 決定戦、盆踊り(茂木音頭、ダンシングヒーロー)等を実施

産業振興・交流部会が中心となり、振興協議会、ちんじんよか BY 茂木、ペーロン保存会等が参画し実施



開催日	会場	参加者	スタッフ
平成 30 年 8 月 10 日(金)	十八銀行茂木支店駐車場	150 人	20 人
平成 30 年 8 月 11 日(土)	茂木港ターミナル駐車場	600 人	20 人

②みんなでわいわい健康づくり事業

■目的

お年寄りが元気で楽しく過ごせるまちを目指し、高齢者の健康増進を図るため、運動教室等を開催する

■実施内容

ペタンク、健康吹き矢、それぞれに講師を招き、座学、実技を学び、大会形式での講習会を実施。

福祉健康部会が中心となり、民生委員、連合自治会、福祉事業所、地域包括支援センター等が参画し実施



名称	開催日	参加者数	スタッフ
ペタンク講習会	平成 30 年 7 月 21 日(土)	26 人	3 人
	平成 30 年 9 月 22 日(土)	26 人	3 人
健康吹き矢講習会	平成 30 年 8 月 24 日(金)	26 人	3 人
	平成 30 年 10 月 19 日(金)	29 人	3 人
エンジョイウォーキング	平成 31 年 3 月 24 日(日)予定	50 人	

③「ふれあい動物園」事業

■目的

優しい心を持った子どもの育成とともに、地域内外の子どもから高齢者までの交流を図る

■実施内容

長崎バイオパーク、長崎ペンギン水族館から移動動物園を呼び、動物とのふれあいをおし、子どもたちに命の暖かさや大切さを感じることができる体験を実施。

子育て青少年育成部会が中心となり、育成協、子どもを守る会、PTA、小学校等が参画し実施

開催日	会場	参加者	スタッフ
平成 30 年 10 月 14 日(日)	茂木中学校運動場	333 人	20 人



④茂木ペーロン大会開催事業

■目的

茂木地区のペーロン文化の継承と地域内外の交流を図るため、茂木地区ペーロン大会を開催する

■実施内容

地区チーム(中学生、PTA、企業等)による対抗戦、子どもたちの体験ペーロン等を実施。今年度は、茂木地区で活動しているグリーンツーリズム団体「ちんじんよか BY 茂木」が主催する「ちんじんよか BY 市」と同時開催。

ペーロン保存会、小中学校 PTA、振興協議会、漁業協同組合等が参画し実施

開催日	会場	参加者	スタッフ
平成 30 年 7 月 1 日(日)	茂木水辺のきずな公園周辺	500 人	30 人



(6)協議会設立の成果と今後の課題

①協議会設立の成果

- ・協議会の構成団体として多くの団体や事業所が参画したことで、これまで積極的に関わってなかった人や団体などが主体的に取り組むなど、新たな担い手の発掘につながった
- ・協議会の事務局に若手が参画し、運営に携わることで、自治会長等の負担軽減につながった
- ・伝統行事の担い手づくりと、地域の活性化を目的に協議会事業としてペーロン大会を実施したことで、地区内外からの参加者が大幅に増え、交流が生まれた

②今後の課題

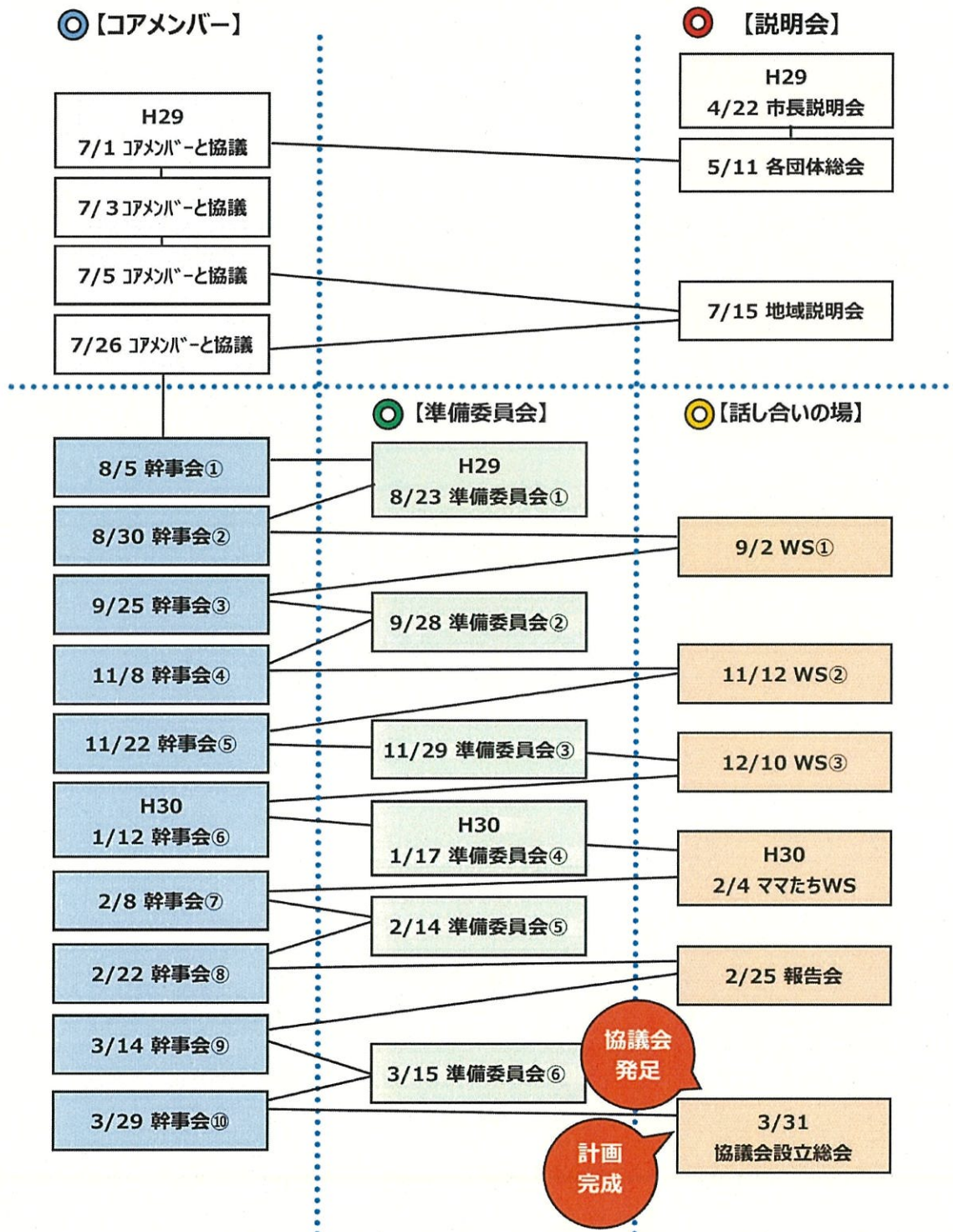
- ・高齢者の見守り、生活支援、災害対応など具体的な地域課題の解決につながるような事業が実施できるよう協議会の体制を強化する必要がある

6 横尾地区の状況

(1)概要

- ①協議会名称 横尾小学校区コミュニティ連絡協議会
- ②人口・世帯数 7,360人・3,390世帯(平成29年9月末現在)

(2)協議会設立に向けてのプロセス



(3)話し合いの様子

①準備委員会(委員数：14 団体 15 人)

横尾連合自治会、横尾中学校区育成協、横尾小学校区子どもを守る連合会、横尾小、横尾中、横尾小 PTA、横尾中 PTA、滑石センター保育園、みやま幼稚園、西北・滑石老人クラブ連合会、横尾地区民児協、横尾地区保護司会、横尾郵便局、滑石郵便局

全 6 回開催

■主な議題

- ・まちづくり計画書策定へのスケジュールの検討
- ・準備委員会の委員、規約の検討
- ・まちづくり計画の検討
- ・協議会の体制の検討
- ・協議会設立後の事業計画の検討



②話し合いの場

「横尾地区『まちづくり計画策定のための協議の場』 みんなで考える会」

■第 1 回

日 時：平成 29 年 9 月 2 日(土) 13:00～15:30

場 所：横尾地区ふれあいセンター 2 階 第 1 研修室

テーマ：「日頃感じていることを共有する」

参加者：68 人



■第 2 回

日 時：平成 29 年 11 月 12 日(日) 13:00～15:30

場 所：横尾地区ふれあいセンター 2 階 第 1 研修室

テーマ：「やりたいこと、やるべきことを深く話し合う」

参加者：57 人



■第3回

日 時：平成29年12月10日(日) 13:00～15:30

場 所：横尾地区ふれあいセンター 2階 第1研修室

テーマ：「まちづくり計画(案)を確認し、将来像を決める」

参加者：63人



■第4回

日 時：平成30年2月4日(日) 13:00～15:00

場 所：横尾地区ふれあいセンター 2階 第1研修室

テーマ：「子育ての本当のところ」

参加者：30人(子育て世代限定)



■報告会

日 時：平成30年2月25日(日) 13:30～15:00

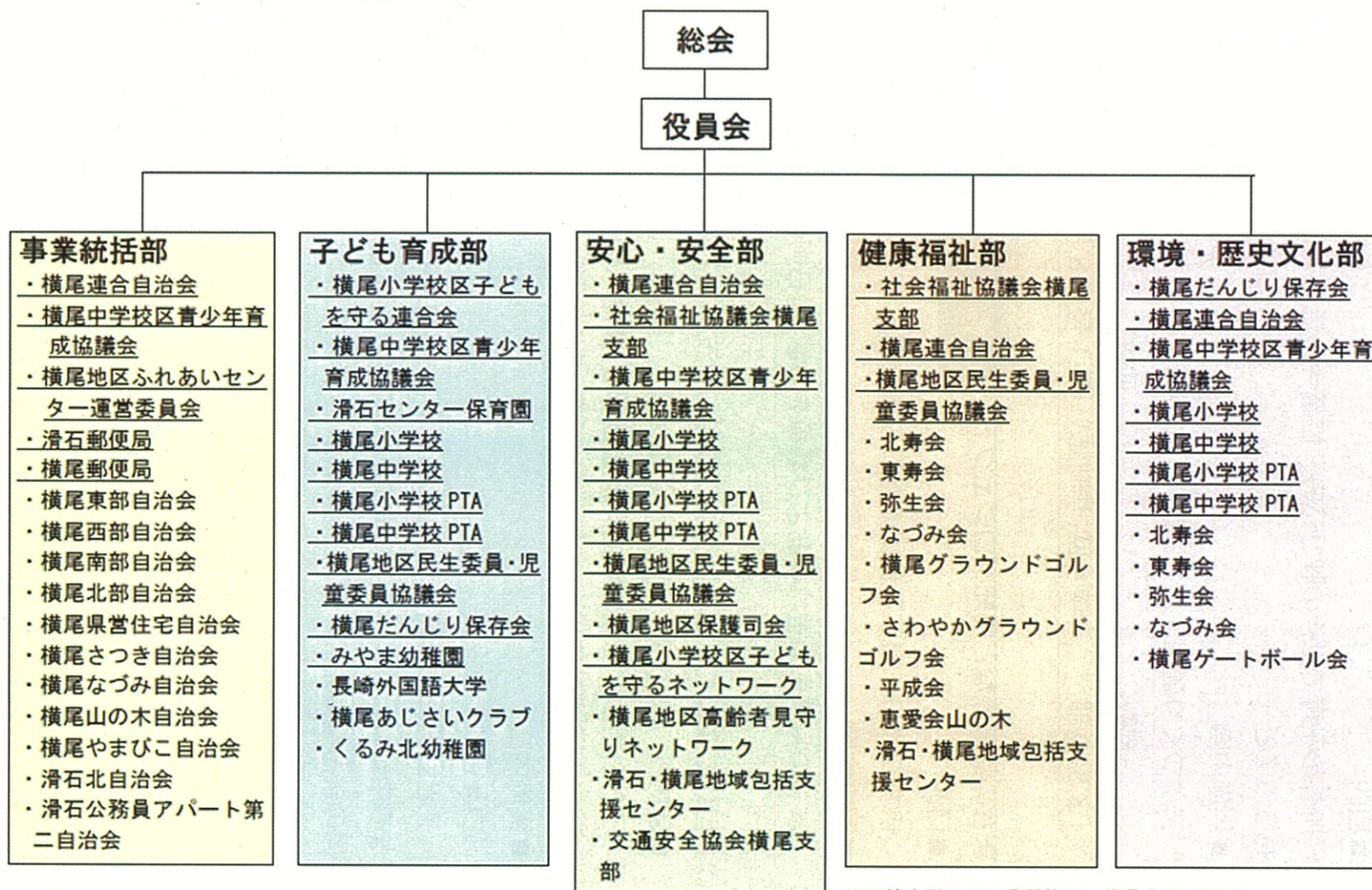
場 所：横尾地区ふれあいセンター 2階 第1研修室

テーマ：「横尾小学校区まちづくり計画をみんなに報告する」

参加者：58人



横尾小学校区コミュニティ連絡協議会 体制図



※下線を引いている団体は、役員会のメンバー

(5)平成 30 年度実施事業の概要

①まちの魅力を伝えるプロジェクト【まちづくり通信・看板等の設置】

■目的

町外の子育て世代の呼び込み、協議会の活動を広く知ってもらうこと

■実施内容

まちづくり通信「よこおびと」の発行

部数	回数
3,500 部	年 4 回(季刊誌) 第 1 号は 8 月発行



②まちの将来像など周知プロジェクト



■目的

まちづくりに対する住民の意識改革を図る

■実施内容

まちの将来像の垂れ幕および看板を設置(滑石郵便局、横尾郵便局の 2 か所)

③多世代で楽しくプロジェクト【ウォークラリー・田植え】

■目的

子どもたちに地域の歴史文化を継承し、まちへの愛着を持ってもらうために、子どもから高齢者まで参加できるイベントを開催する

■実施内容

【ウォークラリー】

子どもを守る連合会や各自治会(子ども会)が中心となり中学校、外国語大学等地域団体の協力を得て、横尾のまちを舞台に、ウォークラリーを実施

【田植え・稲刈り・脱穀】

横尾小学校 4 年生と横尾だんじり保存会を中心とする地域団体でもち米の苗を植え、稲刈りの体験を行った。できた米は赤飯にして参加者全員で食べる予定



名称	会場	開催日	参加者数	スタッフ
ウォークラリー	横尾地区一円	平成 30 年 6 月 3 日(日)	260 人	128 人
田植え	—	平成 30 年 6 月 14 日(木)	76 人	10 人
稲刈り		平成 30 年 10 月 19 日(金)	84 人	18 人
脱穀	横尾小	平成 30 年 11 月 9 日(金)	71 人	5 人

④健康で長く元気にプロジェクト【横尾えがおサロン】

■目的

現在開催している高齢者サロンなど各種イベントへの参加を促すため、小中学生の参加を得るとともに、地区内のイベント日程を自治会など構成団体に広く周知を行う

■実施内容

子どもから高齢者までを対象としたふれあいの場「横尾えがおサロン」を定期的開催。

健康福祉部を中心に、民生委員、社協支部、連合自治会、福祉事業所、地域包括支援センター、放課後児童クラブ等が参画し実施



開催日	会場	参加者数	スタッフ
平成 30 年 6 月 16 日(土)	横尾地区ふれあひセンター	104 人	15 人程度
平成 30 年 7 月 21 日(土)		54 人	15 人程度
平成 30 年 8 月 18 日(土)		74 人	15 人程度
平成 30 年 9 月 15 日(土)		49 人	15 人程度
平成 30 年 10 月 20 日(土)		65 人	15 人程度

⑤学びの道等花いっぱいプロジェクト【種まき・花壇整備】

■目的

学びの道や通学路わきの河川敷などに花を植えることで、美しいまちとし、住民や子どもたちにまちに誇りと愛着を持ってもらう。また、野菜づくりを通して子どもたちに食育について学ぶ機会を確保する

■実施内容

通学路脇の河川敷を耕し、コスモスの種まきを行った。また、学びの道の花壇の草刈り・整備も行った。安心・安全部を中心に小・中学校 PTA、中学生が参画し実施



開催日	会場	参加者数	スタッフ
平成 30 年 6 月 10 日(日)	グリーン広場横の河川敷	15 人	15 人
平成 30 年 7 月 15 日(日)	学びの道	66 人	66 人
平成 30 年 10 月 7 日(日)	グリーン広場横の河川敷	19 人	19 人

(6)協議会設立の成果と今後の課題

①協議会設立の成果

- ・ これまで行ってきた取り組みを協議会の事業として行うことでスタッフや参加者の増につながった
- ・ 幅広い年齢層の参加で、住民同士が顔なじみになる機会が増加した
- ・ 協議会の構成団体同士のそれぞれの活動の情報の共有化が図られた
- ・ 連合自治会に加入していない自治会が呼びかけに応え、協議会に参画した
- ・ 横尾えがおサロンや田植えなど子どもから高齢者までが交流する場を設けたことで、今まで開催していた高齢者サロンより高齢者などの参加者が増加し、世代間の交流が広がった
- ・ イノシシ対策など協議会が実施する事業に対して住民の関心が高まってきた
- ・ 連合会だよりと育成協だよりを廃止してコミュニティ連絡協議会の季刊誌（よこおびと）へ統合した

②今後の課題

- ・ 町外の子育て世代の呼び込み、自治会や子ども会への加入率の増加対策など、単一団体では、対応が難しかったことへの取り組みを始める
- ・ 協議会の活動や成果を住民に広く周知し、参加を呼びかけるための継続的な情報発信が必要である
- ・ 既存の事業やイベントにおいて目的が類似するものについては統合を図り、各団体の負担を軽減する
- ・ 将来像の実現をめざし、各部が連携した効果的な事業の創出が必要である

Ⅲ モデル事業の検証

1 成果

(1)新たな担い手の発掘・当事者意識の醸成

- ・事業実施前には、担い手の確保の心配があったが、取り組みが進む中で、新たな担い手の参画が得られた
- ・分野ごとの部会制にすることで、事業を企画する段階から若い人も交えて話すようになり、若手が活動に参画するきっかけづくりになった
- ・まちづくり計画策定の複数回の話し合いに、様々な団体、世代が参加することで新たな担い手が出てきた
- ・協議会の構成団体として多くの団体や事業所が参画したことで、これまで積極的に関わってなかった人や団体などが主体的に取り組むなど、新たな担い手の発掘につながった
- ・既存の活動を協議会の主催にしたことで、運営に関わる人や団体が増えるとともに、参加者も増加した
- ・協議会のまちづくり活動を地域住民に周知することで、認知度が高まり、参画する団体やスタッフのやる気が向上した
- ・話し合いの回数を重ねることで、目指す目標や取り組みが明確になり、参加者のまちづくりに関わる当事者としての意識が強くなった
- ・協議会の設立により、住民同士の顔の見える関係が構築された
- ・連合自治会に加入していない自治会が呼びかけに応え、協議会に参画した

(2)役割分担・連携

- ・協議会の構成団体間で情報共有をすることで、事業実施の際の協力体制ができた
- ・部会制にすることで、部会の自主性に任せて事業を計画、実行してもらうことができ、役割分担が図られた
- ・「まちあるき」の実施に伴い、様々な団体・事業所等の協力を得られたことから連携する機運がより高まった
- ・自治会やPTAが別々に行っていたパトロール等の活動を連携して行ってはどうかとの提案がなされるなど、事業の見直しや負担軽減のきっかけづくりになった
- ・協議会の事務局に若手が参画し、運営に携わることで、自治会長等の負担軽減につながった
- ・これまで行ってきた取り組みを協議会の事業として行うことでスタッフや参加者の増につながった
- ・協議会の構成団体同士のそれぞれの活動の情報の共有化が図られた

- ・協議会に学校が参画することで、子どもたちへの周知や参加がスムーズになった
- ・連合会だよりと育成協だよりを廃止してコミュニティ連絡協議会の情報誌へ統合した

(3)地域課題の解決

- ・高齢化が進む地区の課題を解決するため、送迎サービスなどの生活支援事業を新たに企画し実施することができた
- ・地域住民に対する協議会活動の周知不足という課題解決のために、広報誌を毎月発行し、自治会回覧により周知を行った
- ・健康への関心やがん検診の受診率が低いという地区の課題解決のために、地域に住むお医者さんとの座談会を実施し、健康づくりに対する意識向上を図った
- ・広場の活用について様々な団体、世代から新たな視点でのアイデアが出され、リサイクルや、にぎわいの創出を目的とするイベントの実施につながった
- ・伝統行事の担い手づくりと、地域の活性化を目的に協議会事業としてペーロン大会を実施したことで、地区内外からの参加者が大幅に増え、交流が生まれた
- ・サロンや田植えなど子どもから高齢者までが交流する場を設けたことで、参加者が増加し、世代間の交流が広がった

(4)円滑な協議会運営

- ・協議会運営の要となる事務局について、適切な人材が確保できたことで、事業の企画や調整等の役割分担が図られた
- ・部会長を中心に部会員が協力して事業の企画、運営を実施することで、役割分担・負担軽減が図られた
- ・事務局員を増やすなど事務局を強化したことで、構成団体との連携調整が円滑に行われるようになった

2 課題と対応策

(1)課題

①地域コミュニティ連絡協議会設立前

- ・まちづくり計画策定のための話し合いの場が増えることにより負担感があつた
- ・まちづくり計画策定の話し合いの場に、どれだけ多くの人に参加してもらうかが課題である

②地域コミュニティ連絡協議会設立後

- ・部会制は、役割分担ができるなどの利点はあるが、他の部会の動きが見えにくい一面もある
- ・経理事務の事務手続きや交付金の対象経費などについての詳細なマニュアルが必要である
- ・課題解決のための事業の実施には、資金が必要なものもあるため、継続的な財政支援が必要である
- ・協議会の運営を円滑に行っていくためには、構成団体への連絡調整や会計の事務処理等を行う事務局員が必要である
- ・協議会によるまちづくり活動をしていくためには、新たな人材の掘り起しや人材育成が必要である
- ・協議会の活動や成果を住民に広く周知し、参加を呼びかけるための継続的な情報発信が必要である
- ・高齢者の見まもり、生活支援、災害対応など具体的な地域課題の解決につながるような事業が実施できるよう協議会の体制を強化する必要がある

(2)対応策

①地域コミュニティ連絡協議会設立前

- ・取組みを始めたばかりの時期は、連合自治会長をはじめ、自治会長からの参加の呼びかけが不可欠であり、自治会の力が非常に重要であることからさらに連携を深め取り組んでいく
- ・まちづくり計画策定のための話し合いの場については、内容検討や準備、運営について市職員が支援するとともに、会議そのものの負担感を軽減するよう進め方等を工夫する
- ・協議会の母体となる団体は各地区様々であり、それぞれの地区の実情や特徴を反映した組織作りに地域と連携して取り組む

②地域コミュニティ連絡協議会設立後

- ・地域コミュニティ連絡協議会の体制づくりについては、体制ごとの特徴を分析し地域にあった体制が構築できるよう、モデル地区など先行地区の取組み状況等の情報提供を行う
- ・協議会の円滑な運営や事業実施の要となる事務局の重要性について、情報提供を行う
- ・交付金の使い方についてのわかりやすいマニュアルの整備を行うとともに会計事務に関する説明会を実施する
- ・地域のまちづくりを担う市民や団体を対象とした講座・研修会の開催や、先進都市の視察を実施する
- ・協議会間の情報共有のための会議を開催する

3 検証結果

市内 6 地区でモデル事業を実施した検証結果は次のとおりです。

(1)話し合いの過程の重要性

まちづくり計画の話し合いの過程を通じて、地域への思いを新たにでき、自分に何ができるのかを考えるきっかけにつながり、まちづくりの機運が高まった。また、これまで地域の活動に参加していなかった新しい人材の発掘にもつながった。

(2)協議会の体制の効果

自治会をはじめ様々な団体や事業所、企業等で構成する地域コミュニティ連絡協議会を設立することで、地域のことをみんなで決めてみんなで実行する体制が強化された。

(3)支援の必要性

協議会の設立のための話し合いの場の運営や、協議会の事業の円滑な実施のためには、運営や活動を支援する職員の配置が必要である。

また、地域のまちづくりの担い手に対する人材育成をはじめ、情報の提供、連携・交流の促進などの支援とともに、協議会が事業を実施していくための財政上の支援も必要である。

(4)設立に向けた検討に至っていない地区への対応

現在、協議会設立のための準備委員会を設置し、まちづくり計画策定の話し合いを始めている地区が 12 地区、準備委員会設立に向けた検討を進めている地区が 29 地区、検討に至っていない地区が 30 地区という状況である。検討に至っていない地区の中には、人口減少や高齢化による担い手不足などの課題により、協議会設立に向けた検討が困難な地区や、協議会の認定要件が設立の支障となっている地区もある。そのような地区については、重点的な支援を行うとともに協議会の認定要件の見直しを進める。

まとめ

モデル地区においては、これまでまちづくり活動に取り組んでこられた実績と地域住民の皆さんのご努力により、多くの団体や様々な世代の方が参加した話し合いの場を開催され、まちの課題や目指すべき将来像などが盛り込まれたまちづくり計

画を策定されました。そして、策定したまちづくり計画に基づく様々な事業に多くの住民が参画され、地域課題の解決に向け大きな成果を得ることができました。

これからも地域におけるまちづくりを推進していくために、市職員が地域の皆さんと一緒に取組んでいくことが重要だと考えます。

さらに、地域のまちづくりの担い手に対する人材育成をはじめ、情報の提供、連携・交流の促進などの支援とともに、協議会が事業を実施していくための財政上の支援も必要です。

また、協議会設立に向けた検討が困難な地区については、重点的な支援を行うとともに協議会の認定要件の見直しを進めます。

この地域を支えるしくみは、市内のすべての地域を対象としたものであることから、一定の期間内に全地区で協議会が設立できるよう取組むことが重要です。

今後とも、地域の皆さんが自らの地域の将来を見据え、安全・安心に暮らすことができるように地域の力を集める組織として「地域コミュニティ連絡協議会」を設立していただき、その中で具体的な取組みを考え、実行していただくという「地域コミュニティのしくみづくり」を推進していく必要があると考えます。